

# 音声とデータの複合活用に 「ひかり電話オフィスタイプ」を提案

他社に先駆け「ひかり電話オフィスタイプ」を直収した多機能通信システム「IPV721」を発売するなど、特色のある通信機器の開発で評価されているアレクソンでは、「ひかり電話」だけでなくその通信基盤である「Bフレッツ」を活用した、提案営業や販売パートナー支援に力を入れている。自社の通信機器に他の製品やアプリケーションを合わせて販売するこの手法に、同社では手ごたえを感じているようだ。

「市場のニーズを見抜き、最新の機器を開発・販売をする」という意識は、メーカーであるならば従業員1人1人がもたなくていけないポリシーだ。それは、事業を継続させるために受け継がれなくてはならない遺伝子といってもよいだろう。

アレクソンではそれを忠実に製品開発の現場で実践している。

電話番号を変えることなく、通信費用が削減できる「ひかり電話」に通信業界の関係者は注目をしているが、同社ではその通信サービスに対応した製品を次々と発売するなど、常に市場に密着・即応した製品開発体制を築いている。

最近でも業界初の「ひかり電話オフィスタイプ」を直収した、多機能通信システム「IPV721」を本年7月に発表、アレクソンらしい素早い動きをみせている。

同製品は販売パートナーからの反応も上々で、当初想定した台数以上の引き合いが販売開始してからこの数ヶ月間によせられているようだ。

「IPV721」は次のような特長をもつ。

## (1) ビジネスホンの接続

INSネット64のU点で他の通信機器と接続できるために、既存のビジネスホンとの接続や工事が簡単にできる。普通の電話から「ひかり電話オフィスタイプ」への移行をスムーズに行える。

## (2) 音声自動応答機能

業務時間外アナウンスなど、予め指定した音声で応答することができる。

## (3) アナログ機器との接続

FAXなどのアナログ機器を「ひかり電話オフィスタイプ」とINSネット64という2つの外線を切り替えて使用できるため、トラブル時のバックアップ対応ができる。

## (4) SIP電話機とビジネスホンで内線通話

指定のSIP電話機の追加で容易に電話機を増やせる。既設のビジネスホンと内線通話も可能。

このような機能は、今まで同社が開発してきたTAやゲートウェイなどの通信機器の技術開発力やノウハウが凝縮されたもので、この完成度の高さと、

豊富な機能が販売パートナーから支持を得ている理由のようだ。

## 中小規模の企業で有効活用

そのアレクソンが次の一手と考えているのが、「ひかり電話」の通信基盤である「Bフレッツ」を使ったデータ通信サービスへの展開だ。「音声だけをブロードバンド通信網の『Bフレッツ』に使うだけではもったいない、他にもっと活用できるはずだ」という発想から、セキュリティ製品やネットワークカメラ、アプリケーションサーバを自社の製品と組み合わせ活用する、オフィスに必要な通信システムの提案を考えている。

しかし、「ひかり電話オフィスタイプ」のユーザーと想定される中小規模の企業では、まだブロードバンドの利用ということでは、意識や運用する知識も不足しているのが実態だ。アレクソンでは自社製品の運用や保守ではリモート機能を取り入れているが、それら顧客対応で磨いた技術を活かすことで、運用の心配がなく誰でも使える通信システムの商材を準備中だ。

「ひかり電話」による通信費の削減とブロードバンドの活用という二つを複合させた提案は、今後ネットワーク製品の販売手法では主流となると同社では見ており、それに対応した製品や組織作りにアレクソンは力を入れている。

## お問い合わせ先

### 株式会社アレクソン

営業部

西日本営業グループ：072-777-1584

東日本営業グループ：03-3667-2276

URL：<http://www.alexon.co.jp/>



多機能通信システム「IPV721」